

第23期生 飯能・秩父研修 [5月25日～26日]

無垢の木の魅力を、自分の知識と技で伝えられる建築職人めざそう

カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ授業見学
大歓迎！Tel
03-
5950-1771

日本は国土の3分の2が森林の国です。この豊富な資源をどのように生かすか。これからの日本社会にとって大きなテーマとなっています。日本政府は今、CLT（直交集成板）をはじめとする集成材の需要拡大に躍起となっていますが、木の建築の専門家集団である私たちは、本来の木の特徴を生かした利用法の普及・拡大こそが国土の保全、人と環境にやさしい建築にとって欠かせない、と考えています。今年の1年生の飯能・秩父研修でも、そのことを改めて感じました。



周辺で伐木された木材の流通拠点、吾野原木センターでは、「無垢の木の利用を増やすために、ユーザーを説得できる設計者や大工になってほしい」と激励されました。

飯能・秩父研修は、東京建築カレッジ独自の教育プログラムです。江戸・東京の町づくりに貢献してきた埼玉県南西部の西川林業地（西川材産地）を現代の建築にどのように生かしていくか。一人ひとりの研修生に考えさせます。

第1日目は、飯能市のフォレスト西川、大河原木材などへ。地元の業者が生き残りをかけて共同で立ち上

今年の公開講座のテーマが決まりました。

古民家再生とコミュニティデザイン

開催日は10月21日（日）午後
会場は「けんせつプラザ東京」です。

前回の第19回公開講座では「スクラップ&ビルドからキープ&チェンジへ」という主張を打ち出し、そこでは、木造建築の技と知恵を身につけた「町医者のな」大工や各分野の建築専門家が必要であると結論づけました（内田青蔵 神奈川大学建築学科教授による基調講演）。

今回の第20回公開講座では、住まいを社会的な暮らしの拠点と位置付け、地域共同体の構成員が力を合わせて新築や修繕に向かう“結いの精神”の現代的再生を「古民家再生」と「コミュニティデザイン」をキーワードに紹介します。

このテーマで精力的に仕事されている一級建築士、関谷真一さんと鈴木陽子さんに事例報告と問題提起をしていただき、人びとが安心して暮らせる真に豊かな住まいと地域づくりについて考えあいます。

建築とまちづくりに関心のある広範な市民の関心に応える公開講座です。人間らしい暮らしに役立つ建築を求める人々と建築の技術・技能者の交流の機会として成功させたいと思います。ご期待ください。

げたフォレスト西川のプレカット工場や集成材、防腐・防蟻加工の現場、大河原木材のモデルハウスと製材工場、吾野原木センターなどを訪問、自分たちが普段使っている材料がどのように生産・流通されているのか、実地で学びました。本校の開校当初から交流のある現地の棟梁や工務店が手掛けた無垢の木と伝統構法を生かした建築物の見学も行ないました。

く、墨付け・刻みが自分でできる人に「無垢の木の需要拡大に頑張ってもらいたい」ということでした。第2日目は、秩父市の旧大滝村地域へ。東京大学の演習林（下写真）と元大滝村村長の講義から森林資源を育む自然について認識を深めました。

梁から、秩父の歴史と文化、街並みの魅力をたっぷりレクチャーしていただきました。



カレッジの先生ってどんな人 第2回



「建築環境演習」担当
樋口 佳樹さん

日本工業大学
建築学科
生活環境デザインコース
准教授

～普段のお仕事は？
日本工業大学の建築学科の教員をしています。
私の研究室では、「環境

共生」をキーワードに、住む人の健康・快適性に加え、地球環境に配慮した住宅の設計や研究に取り組んでいます。緑で日射を遮り、風通しを良くして涼を得ることや、し尿を堆肥化して畑へ還すなど、極力設備に頼らない住宅設計を心がけています。

～授業で伝えたいこと、工夫していること
環境工学で取り扱う要素には、熱・温熱・光・水・音・空気質など、さまざまなものがあります。どれも、暑い／寒い、まぶしい／暗い、美味しい／不味い、うるさい／静か、臭い／良い匂い、など、人間の感覚に関する要素です。しかし、それらの殆どが、目で見ることができないため、理解するのが難しいのかもしれません。カレッジでの授業では、できる限り要素に関連する実験演習を取り入れ、まずは「体感すること」を重視しています。結果として、目に見えない感覚的な要素をできる限り数値化して表現することができるようになることを期待しています。

～カレッジ生へ

「快適で健康な家とは、どういう家でしょうか。」私は、「手間を省いた、何もなくても済むような家」を「快適」と云っているような風潮があるように感じています。自動で点灯する照明、汚れの付かない壁、いつも温かい便座、分別不可能な素材など、挙げ出したらきりがありません。果たして、そのような家が本当に快適で健康な家なのでしょう。「なにもしないで済む家」ではなく、「人が楽しく働くことで健康になる家」というのが、私の理想です。この問いに答えはありませんので、皆さん自身の理想を見つけてください。

2年生（第22期生）の実技実習は、廻り階段を終えて、各専門工事の体験授業が

ます。7月21日（土）



2年生の授業から

始まりました。上の写真は5月19日（土）の「型枠・鉄筋」。

本校の母体、東京土建の組合員さんが講師を務めました。今後、「左官・モルタル」、「左官・漆喰」、「水道設備」、「内装・クロス」、「塗装」、「タイル」、「板金」の順で授業が行われます。

以降、2年生はほとんどの授業が池袋校舎で行われるようになります。

個人学習課題である

1年生の授業から

1年生（第23期生）の実技実習は6月いっぱい、墨付け・刻み学習の総まとめ課題として「カレッジフ

高レベルにする所作を身につけることも狙いです。

6月下旬からは「建築スケッチ」授業が始まります。気

になった建物を瞬時にプロっぽく描くノウハウを学びます。

見学を歓迎します。

大工技術を通して建築の基本を学ぶ貴重な2年間 第24期生（2019年4月入学）募集

当面の日程をご紹介します

第1回募集		第2回募集	
◆学校説明会	8月29日（水）	◆学校説明会	10月14日（日）
◆締切	9月6日（木）	◆締切	10月24日（水）
◆試験日	9月12日（水）	◆試験日	10月28日（日）

※説明会、試験共に池袋校舎が会場です。
※説明会の開催時間
①午後2時 ②午後7時（10月は①のみ）
※試験日の開催時間
午前10時～午後4時
※入学時35歳以上と大企業の方の試験は、第4回選考会となります。